

そろそろ来年のことを考えねばならない。これからは丁寧な人生を送るため、①予定表にはもっと神経を使い、朝起きたら一つ一つの細かく内容をチェックし、寝る前に一日を振り返ってみよう。目標として、②自分は今の分野で力を発揮できるか？③今後一年間に、その分野を増やそうかと思うか？④新しいことにチャレンジできるか？などであろう。

余命は少ないがまだまだ人の道は長く険しい。その道を歩かずしてどの道を歩くか？一歩前進して二歩後退していると思えないときもある。だが、自分の足跡をしっかりと残して死にたいと思うなら、それ以外に歩く道はないであろう。編集部



■11月例会前半発表者甘田外成氏

11月4日(月)Pm2:00~4:00 高槻市クロスパル会場にての当会例会は元東洋製罐専務取締役の甘田外成研究員により「高碓達之助の孫弟子としての企業人生~その四方山話~」と題し講演いただきました。

内容は今春自ら自費出版されたエッセイ集「雑木林」I・II・IIIを再構成、コンビニのプライベートブランド-PB 缶開発企画を巡る氏とセブンイレブン担当者との交渉のくだりが特に印象深い経験談でした。

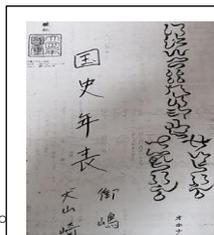


結果はエンドユーザーの広範なニーズの代弁者を自認するセブンイレブンの要求を受け入れず破談とした自らの決断を高碓イズムともいふべき(生産者側)の「業界協調精神」であり、時として疑念を持つこともあったとのことでした。

しかしこれは大手リテイラーのなによりの傲りでもあり、もっとエンドユーザーに生産者の顔や商品の開発思想を全面に主張すべきと考えます。従って甘田氏の決断は正しく、これを高碓イズムの所在とするならば大いに誇っていただいていたいい決断だったと理解します。(宮本記)

■11月例会後半発表者三輪廣司氏

11月18日(月曜)におきましてはメインテーマとしての高槻名誉市民の話題から少し視点を変え、皇統と隣接市町村を含めた郷土高槻との深い歴史的関わりが話されました。三輪氏の独特な倫理観、歴史観から興味のある内容となりました。次回も三輪研究員による「軍歌史」です。



■“高槻名誉市民村上三島氏を読む”

(前大阪府会議員吉田利幸著「感動」(平成6年)より2回に分け掲載。)

昭和61年に昭和天皇が植樹祭で大阪に行幸なさいます機会に私達は府民こぞって御奉迎申し上げたい一心で、日本の伝統と文化を守る大阪府民会議を核に実行委員会を組織し、準備を整えていた時です。実はそれまでの段階で大阪には、一つも御製碑がなかったのです。実行委員会では是非御製碑(天皇陛下がお詠みになられた和歌の碑)を建立することが決定されました。

どなたに揮毫して頂くかが話題になり、私から村上三島先生に揮毫して頂くことを提案申し上げ決定されました。

しかし、私自身も面識もなく、当日帰宅し、村上先生の自宅へ何の準備もなくお電話を差し上げたところが、慈愛に満ちた優しい声で「吉田さん、今からいらっしゃい。」と言って頂き、すぐさまご近所に住まいをされていた先生宅に向かいました。村上先生の応接間で、先生にお願いの主旨をお話させて頂くや、開口一番「私の字は生きているのです。」この言葉を発せられました。私は37歳になるまで、こんな新鮮かつ真摯な言葉を聞いたことがなかったのです。



大変な驚きと感動を覚えました。(続く)

【例会お知らせ】

- 12/2(月)講演「鳥羽における高碓達之助(後編)
*飛び入りゲスト流通科学大学教授
- 12/16(月)講演「軍歌史」三輪廣司会員